

報告日：2021年5月24日

日時	2021年5月22日(土) 13時20分～16時50分
開催場所	機械振興会館 研修室1(スタッフ)及び Teams によるリモート開催
次第	①13:20-13:25 開会の挨拶 ②13:25-13:30 全体構成の説明 ③13:30-13:50 国際活動TFの活動報告 活動経緯と日本技術士会の国際活動方針 ④13:50-14:10 今期国際委員会が目指したものと課題(方針設定の背景を中心に) ⑤14:10-14:30 APEC エンジニア&IPEA 国際エンジニア認証基準と各国の事例について ⑥14:30-14:50 当会が主導的に行う国際交流活動について ⑦14:50-15:10 国際委員会から提供する会員支援情報について (HPを用いて提供する情報の概要/安全保障技術提供ガイドブックのご紹介) ⑧15:10-15:30 国際活動推進基本方針を踏まえた今後の活動 (日韓技術士交流委員会 / 海外活動支援委員会) ⑨ 15:30-15:40 休憩 ⑩ 15:40-16:40 パネルディスカッション「IPEJの国際活動の今後の展開について」 ⑪ 16:40-16:45 閉会の挨拶
参加者	194名(国際委員参加者及び発表者16名を含む)

1. 目的

常設委員会としての国際委員会は間もなく3期目を終了いたしますが、期末時には毎回、終了報告会を開催しております。これまで、参加者の多くは海外業務に関心の高い関係者が中心でしたので、活動実績や入手情報を整理して記録に残す意義を重視してきました。

しかし、国際活動との接点の少ない会員に対して、積極的な情報提供を行ってこなかったことが、技術士制度改革の背景にある、工学教育から専門職資格まで一貫した国際的な人材育成の考え方について、技術士自身に十分に浸透していない一因であろうと認識致しました。

そのため、今期の終了報告会は、会員の海外活動支援情報の紹介とは別に、技術士制度に大きな影響を与えている、専門職資格の国際的な相互認証の枠組みや、それを主導する会議体等の基本情報を周知するためのセミナーとしての位置づけ*を強調した構成と致しました。

合わせて、2019年10月より理事会内に設置された国際活動検討タスクフォースにより取りまとめられ、2021年5月の理事会で承認されたばかりの、日本技術士会としての「国際活動推進基本方針」に関しても、その検討の経緯と今後の課題も含めて報告いたします。

こういった情報を踏まえた上で、技術士の地位向上のために必要な国際活動、それを担う人材の育成や継承、会員に周知が必要な情報の整理、今後の展望等について「日本技術士会としての国際活動の今後の展開について」と題したパネルディスカッションで議論を深めたいと考えます。

なお、これらの情報を3時間で伝えきることはできません。本会は、国際委員会と研修委員会で協同企画をしている、本年11月25日開催の「創立70周年記念全国大会 第4分科会「国際的通用性と日本の技術者の育成」-『コンピテンシー』一緒に考え表現しよう-」に繋げるものとして位置づけます。

2. 発表の概要

1) 全体構成の説明(総合司会) 佐々木 聡(理事、国際委員会 第1小委員会 委員長)
 本企画の趣旨と構成について、海外活動の報告ではなく、技術士制度の本質的理解の一助となる、工学教育から専門職資格制度までの海外の人材育成の考え方と枠組みの共有を目的としたと紹介した。

2) 国際活動TFの活動報告・活動経緯と日本技術士会の国際活動方針
 岩熊 まき(副会長、企画委員会 委員長)
 2021年5月11日理事会にて「国際活動推進基本方針」並びに「国際活動推進基本方針の制定に伴う関係委員会の委員会名称及び所掌事項等の変更」が原案通り承認された。
 検討の経緯並びに日本技術士会の今後の国際活動の方針を報告した。

3) 今期国際委員会が目指したものと課題(方針設定の背景を中心に)
 坂井 剛太郎(理事、国際委員会 委員長)

国際委員会の所掌については、国際活動検討タスクフォースを通して明解になってきた。特に文部科学省の技術士分科会で議論されている、技術士制度の国際的通用性確保に向けた情報収集活動の必要性について解説した。

4) APEC エンジニア & IPEA 国際エンジニア認証基準と各国の事例について

雑賀 幸哉 (国際委員会 第二小委員会 委員長)

APEC エンジニア及び IPEA 国際エンジニアの認証基準が示されている IEA 協定の改訂が現在進められている。本活動報告では、改訂案を含めた認証基準の概要及び主要加盟団体における審査基準の概要について紹介した。

5) 当会が主導的に行う国際交流活動について

都築 雅年(国際委員会第三小委員会 委員長)

第 3 小委員会作成の「主要国際 4 連合団体等」に関する一連の調査に基づき、日本の技術士制度の優位性と強化が必要な面の抽出や、根拠ある取り組みの優先順位設定のために、当会が主導的に行う国際交流活動を報告した。

6) 国際委員会から提供する会員支援情報について

6)-1 HP を用いて提供する情報の概要

武井 遼(国際委員会 第一小委員会)

今期の委員会では[1]技術士制度の理解に必要な国際情報、[2]海外活動を行うための技術士及び組織支援情報、[3]実績報告記録を組み合わせながら、Institution Profiles の整備を行った。その狙いと情報の所在について概要を紹介した。

6)-2 安全保障技術提供ガイドブックのご紹介

池田 大亮(STCWG 国際委員会 第三小委員会)

今期作成した「安全保障技術提供ガイドブック」に関して、その背景や目的、コンセプトや使用上の注意事項、法令上の管理対象であるリスト規制とキャッチオール規制の概要、そして技術指導を請け負う前に確認すべき事項の手順などを紹介した。

7) 国際活動推進基本方針を踏まえた今後の日韓技術士交流委員会と海外活動支援委員会の活動について

7)-1 今後の日韓技術士交流委員会の活動の概要

室中 善博(日韓技術士交流委員会委員長)

1971 年 10 月第 1 回日韓技術士会議の開催から半世紀、日本からの参加者は延べ 4,500 人に上る。第 50 回日韓会議を節目にこれまでの活動を総括し、国際活動方針を踏まえた今後の取り組みについて紹介した。

7)-2 今後の海外活動支援委員会の活動の概要

森山 浩光 (海外活動支援委員会 委員長)

8) パネルディスカッション 「IPEJ」の国際活動の今後の展開について

(ファシリテーター:坂井 剛太郎、パネリスト:岩熊 まき、佐々木 聡、雑賀 幸哉、都築 雅年)

日本国内と国際社会における関係機関・団体の関係、及び第10期技術士分科会の検討内容を深読みした上で、①「技術士」における「国際的通用性」の要否や日本技術士会の将来の存在価値などの選択肢と潜在リスク、②日本技術士会として、国際委員会として接点を持つべき組織・団体についての考察、③それを担う人材の育成と継承のために、日本技術士会としてすべきこと等に関し自由討論を展開した。

以上